

第4次中期経営計画 事業実施計画 令和5年度事業評価

第4次中期経営計画【令和3～5年度】において取り組む事業のうち、主な事業の、令和5年度と計画期間全体の評価は以下のとおり。

1. 公益目的事業

①専門性・独自性の高い事業展開と事業の質の向上

目標	<p>緑化普及啓発事業や公園緑地運営事業に関する実績と経験を踏まえ、独自性と専門性を活かした存在感と優位性を高める事業を展開する。</p> <p>また、利用者アンケートにより意見の把握に努めるとともに、HPやSNS等による豊富な情報発信を活用しながら利用者の要望を事業に反映していく。</p>
総括	<p>【令和5年度の取組状況】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ほとんどの事業を感染拡大前と同様の状況で実施することができた。</p> <p>野草園などの各施設で特色を生かした自然観察会やガイドウォークなどのイベントを開催するとともに、市民センター、町内会、小学校で花と緑の出張出前講座を実施するなど、都市緑化の推進に取り組んだ。</p> <p>各施設において利用者アンケートを実施し、利用者の意見、要望の把握に努め、七北田公園体育館において、「女性ヨガ教室」や「親子で遊ぼう」の実施回数追加などに反映させた。</p> <p>七北田公園では、全国都市緑化仙台フェア連携会場として「アイスガーデンプロジェクト」、「杜のウォールガーデンプロジェクト」等を実施した。</p> <p>情報誌の発行、協会ホームページやブログ、YouTubeなど、様々なツールによる情報発信を行い、YouTube動画「羽生選手を讃える桜・アイスガーデンプロジェクトの紹介」は約8,000回の再生を記録した。</p> <p>太白山自然観察の森、青葉の森緑地では、「昆虫の出現状況」、「鳥類の出現状況」、「植物の開花状況」、「自動撮影カメラにより確認された哺乳類について」等の自然環境調査を実施した。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>本計画の計画期間は、コロナ禍で施設の休園やイベントの中止を余儀なくされたものの、屋外施設の野草園や太白山自然観察の森、青葉の森緑地などでは、感染防止策を講じながら、自然観察会やガイドウォークなどを実施した。</p> <p>都市緑化ホールでは、コロナ禍で数は伸び悩んだが、市民センターや町内会、小学校からの依頼により出前講座を実施し、緑の普及啓発を行った。運動施設公園では、アンケート調査から利用者のニーズを把握し、テニスボールの販売やラケットの貸し出しを始めた。</p> <p>また、緑の普及啓発や緑の文化等の発信として、市政だより掲載や協会情報誌の発行、協会ホームページやブログによるイベント情報の発信、協会YouTubeでの自主事業と園芸講習会等の配信、SNSを活用した野草園の開花状況等の発信など、多様なツールを活用して施設ごとに特徴のある自然や公園緑地等の情報発信を行った。</p> <p>コロナ禍による生活様式、価値観の変化は、都市における公園緑地の再評価につながっており、利用者視点での情報発信は、今後さらなる展開の可能性がある。</p>

②新たな管理形態への戦略的な対応

目標	指定管理における自主事業などをさらに工夫して積極的に取り組み、管理運営の信頼性の確保と利用者の拡大を図る。
総括	<p>【令和5年度の取組状況】</p> <p>次年度の「仙台スタジアム・七北田公園体育館」の指定管理公募に向けて、組織横断型のプロジェクトチームを立ち上げ、申請に向けたロードマップの確認やデータ整理を進めた。</p> <p>当年度、本協会が世話団体として仙台で開催した「全国公園協会協議会」などの機会を捉え、公園PFIへの参入の可能性やクラウドファンディングについて、情報収集、事例調査を行った。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>青葉区・宮城野区・太白区の運動施設公園と葛岡斎場については、引き続き、令和4年度から5年間の管理運営の指定を受けることができた。また、海岸公園の一部(運動広場及びパークゴルフ場を含む)についても、令和5年度から5年間の管理運営の指定を受けることができ、計画期間中に予定していた全ての指定管理の指定を受けることができた。</p> <p>公園PFI やクラウドファンディングについては、事例等を調査し、本協会としての取り組みの可能性について検討したところであるが、公募内容等が様々であることや、公募条件によって関連企業等との連携も多様であり、一概にこうすべきとの方向性は掴めなかった。</p> <p>特にクラウドファンディングについては、明確で合理的な目的が必須であるが、公益法人の資金調達手法として有効であることが確認できた。一方で、クラウドファンディング事業者への委託費用や返礼品の検討などの事務が煩雑であることなど、いくつかの課題も明らかになった。</p> <p>本協会が管理運営等で特色を発揮するためには、計画的な資金調達を図る必要があり、自主事業の強化とともに、新たな手法の導入にも積極的に取り組んでいく必要がある。</p>

③市民団体、関連企業、民間団体との連携協力

目標	緑化普及啓発や公園施設の利用促進のため、今後、市民活動団体、関連企業、地域団体等関係団体との連携をより強化し、事業を展開する。
総括	<p>【取組状況】</p> <p>全国都市緑化仙台フェアメイン会場で開催された新緑祭では、多くの花や緑に関わる市民団体が出展し、当協会も希望団体に花苗を提供する「おもてなしフラワーリング事業」を実施したほか、フェア会場でのたねダンゴ花壇づくりに職員を講師として派遣した。そのほか、花壇コンクール、絵画コンクール、花壇づくり助成、記念樹交付、未来へ花でつなぐ学校花壇事業等を実施し、市民協働による緑化活動に取り組んだ。</p> <p>七北田公園では、七北田公園活性化協議会が社会実験として、NANA+ichi カフェをオ</p>

	<p>オープンさせ、市公園管理課と連携し、継続的に出店のルール作りや公園の利活用について検討を行った。</p> <p>海岸公園では、地域の関係団体と連携し育樹会を5回開催するとともに、小学生の育樹体験、高校生や社会人による除草活動、育樹サポーター養成講座の実施など、沿岸部の緑を再生する「ふるさとの杜づくり」事業の推進を支援した。</p> <p>野草園では、萩まつりをコロナ禍前と同様の形態で9月に開催したほか、ボランティアガイドと連携して園内の植物等の解説、案内を行うとともに、ボランティア主催で「春の妖精を見つけよう」を4月に、「新緑の中の花めぐり」を5月に実施した。</p> <p>全国都市緑化仙台フェアの開催に向け、仙臺緑彩館での出展や海岸公園、野草園、七北田公園など東部エリア会場や連携会場のイベント計画について、仙台市全国都市緑化フェア推進室と協議しながら、出展内容を決定し事前準備を行った。</p> <p>八木山動物公園では、八木山フェスタ実行委員会において、イベントの企画、運営に参加し、販売ブース「ゼブラショップの飛び出しマルシェ」を設けたり、動物O×クイズなどで賑わいを創出した。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>令和3年度の新緑祭と花壇コンクールは新型コロナによる影響で中止となったが、令和4年度は3年ぶりに開催し、緑の市民活動団体や町内会、公園愛護協力会等と協働で取り組むことができた。花壇づくりや絵画コンクール、記念樹交付等はコロナ禍でも対策を行いながら開催し、市民協働による緑の普及啓発を進めた。</p> <p>七北田公園では泉青年会議所や七北田公園活性化協議会と連携して公園の利活用を進め、海岸公園では海岸林の育樹会を、市民、ふるさとの杜プロジェクト連絡会議、企業、小中学校、高校等と協働で行った。</p> <p>野草園では多くの市民が来園する萩まつりを菓匠三全(株)の協賛や関連団体の協力により継続的に開催している。</p> <p>令和5年度の4～6月に開催された全国都市緑化仙台フェアでは、子どもたちや市民団体と一緒に花壇づくりを行うなど準備段階から市と協力して取り組み、開催期間中には各会場での企画展示やガイドを行った。</p> <p>個人や企業が参加する協議会などのプラットフォームによる公園緑地等の事業は、今後さらに活性化することが見込まれ、また、本協会がこれまで培ってきた専門性・独自性を発揮できる分野であることから、今後も積極的に取り組んでいく。</p>
--	--

④安全・安心に向けた取り組みの推進

<p>目標</p>	<p>利用者、職員の安全確保を最優先に、新型コロナウイルス感染症等に対して万全の対策を講じるとともに、消火訓練や避難訓練、AEDを使用した救命講習等に積極的に取り組む。</p>
<p>総括</p>	<p>【取組状況】</p> <p>新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが2類相当から5類に見直されたことに伴い、サービス上の取り扱い等の見直しを行った。各施設では一部対応の緩和を行いながら、引き続き適切な感染予防対策に努めた。</p> <p>各施設において、利用者の安全確保を最優先に消防訓練、災害対応訓練、シェイクアウト訓練、救命講習などを実施し、職員の安全意識の向上に取り組んだ。また、当該</p>

	<p>年度からの取り組みとして、各施設のチーフ、担当者を対象に作業安全講習会を開催した。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>第4次計画期間は新型コロナ対策を最優先とし、利用者と職員の安全と安心を確保するため、マスク、手指消毒や体温測定等の万全を期した。</p> <p>葛岡斎場については、代替のない施設として、厚生労働省や仙台市から発せられる最新情報、通達や逐次更新されるマニュアルにより徹底した対応を図った。</p> <p>また、本協会が管理運営する施設の防災対策として、シェイクアウト、消火訓練や避難訓練、AEDを使用した救命訓練等を行い、職員の安全意識と対応スキルの向上を図った。</p> <p>災害や感染症等によるパンデミックは今後も起こり得るものと認識し、危機管理の意識と対策を継続することが求められる。</p>
--	--

2. 収益事業

①収益率向上への取り組み強化

<p>目標</p>	<p>収益向上に向けて、利用者意見はもとより、情報ネットワークを活用したイベント情報の提供など、施設のPRや情報収集の取り組みを強化する。</p> <p>また、各店舗のコンセプトを明確にし、お客様のニーズに的確に対応した品揃えや快適な飲食空間の提供を図っていくとともに、冬季間の誘客についても検討する。</p>
<p>総括</p>	<p>【取組状況】</p> <p>八木山動物公園内のグーグーテラス、アフリカ園売店、野草園内のどんぐり庵では、季節に合わせた期間限定新メニューを提供し収益向上に努めた。</p> <p>動物公園で4月から販売した土産菓子「カラフルチョコ缶」は、中身を食べた後、入れ物として利用できる可愛いデザインの容器が好評で、売り上げも好調だった。</p> <p>動物公園が全国都市緑化仙台フェアの連携会場であったことから、公式キャラクターグッズを含む動物に関するガチャガチャを園内売店（ゼブラショップ）に新たに設置した。正月臨時開園時には、新春くじ引きを市公園事務所と共同で実施した。</p> <p>七北田公園軽食喫茶 KASVICAFFE において、緑化ホールの「イルミネーション&キャンドルナイト」(12/9~12/25)に合わせ、夜間営業を実施し、特別メニューを提供した。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>八木山動物公園の食堂では、季節ごとに期間限定メニューを提供して好評を得た。</p> <p>また、動物公園ネーミングライツ命名権者の藤崎百貨店とコラボ商品を開発して園内で販売したほか、オリジナル飛び出す絵本や園内パズル木製マップ等の商品を開発し藤崎百貨店で販売するなど、販路拡大を図った。さらに正月臨時開園時には、ホットドリンクの無料提供を行い、誘客を積極的に行った。</p> <p>野草園においては季節に合わせた限定メニューを提供し、七北田公園ではクリスマスのイベントに合わせ、食堂の夜間営業を行うとともに特別メニューを提供した。</p> <p>こうした新メニューや新商品の収入は計画期間中増加しており、収益事業の売り上げに貢献した。</p> <p>収益事業は公益事業の推進に資する事業として行われるものであり、公益財団とし</p>

	での使命を果たす上からも、コスト意識を持ちつつ、既存事業の充実と新たなサービスの展開に取り組んでいく必要がある。
--	--

②新たな事業の検討

目標	利用者アンケートの意見やトレンド、社会ニーズを的確に把握し、商品や新メニューの開発を積極的に進め、販路拡大のためにテイクアウトフード販売などの事業展開について調査・検討を行い、幅広く販売促進に取り組む。
総括	<p>【取組状況】</p> <p>七北田公園において、泉区民ふるさとまつり・ビールまつりに新規出店した。テイクアウトの新メニューに関する取り組みとして、動物公園さるやま売店において、利久の牛タンカレーパンの販売を11月から開始した。藤崎百貨店から福袋企画の一環として、動物公園福袋にグーグーテラスの食事券を付け、福袋広告に店舗名が掲載されたことで、グーグーテラスをPRすることができた。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>利用者意見の多かったキャッシュレス決済について、八木山動物公園アフリカ園売店で令和3年末に導入し、4年度末には仙台スタジアムでスマホ決済を始め、利用者サービスの向上に努めた。</p> <p>また、アフリカ園売店では、令和3年度に全てのメニューのテイクアウトを始めるとともに、グーグーテラスではピザとパスタをテイクアウト商品とし、コロナ禍のニーズに応えるよう取り組んだ。</p> <p>園外での企画として、藤崎百貨店が正月に販売する動物公園福袋に、グーグーテラス食事券を提供し、特典サービスとPRを行っており、様々な場面で利用者サービスの向上を進めた。</p>

3. 組織運営

①社会貢献等の社会的責任への対応と業務品質の向上

目標	公益財団法人としての役割を果たしていくために、協会がもつ専門性・独自性をさらに磨き、これまで培ってきた研究成果や経験などの資源を有効に活用しながら、サービス向上と社会貢献に取り組んでいく。
総括	<p>【取組状況】</p> <p>太白山自然観察の森、青葉の森緑地で行っている「動植物等調査事業」について、令和4年度の調査結果を協会ホームページで公表した。また、調査で得られた情報は、太白山の「自然観察情報」として随時、館内の掲示板に掲示したほか、青葉の森でも、昆虫や植物調査をもとに館内展示やイベント、ガイド、ブログ等に活かし発信した。</p> <p>海岸公園において、海岸公園再生事業モニタリング調査を実施した。またセンターハウス南側のビオトープにおいてもモニタリング調査（植物、昆虫類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類）を行い、その結果を館内の展示コーナーで展示した。</p> <p>仙台スタジアムにおいて、毎月1回、芝生の管理実績や管理計画に係るスポーツタ</p>

	<p>ーフ定例会議（施設管理課・スタジアム・日本体育施設等）を開催し、芝生の品質向上や新たな管理手法について検討した。</p> <p>コンプライアンス研修の受講や倫理・服務チェックシートの活用により、職員のコンプライアンス意識の向上に努めた。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>本協会の専門性・独自性のひとつである緑の保全事業所の「動植物等調査事業」を継続的に行い、その結果をホームページに掲載した。海岸公園センターハウスは自然環境のモニタリング調査を実施し、館内の展示コーナーで展示した。また、仙台スタジアムでは、芝生の維持管理について関係団体と定期的な会議を開催し、さらなる品質の向上と管理手法の検討を行った。</p> <p>働き方改革などの社会状況の変化に対応し、コンプライアンス等の向上に継続的に取り組むことが重要である。</p>
--	--

②人材育成の充実

目標	<p>職員の能力向上と人材を育成していくために、各種講習会、研修会への参加を促し併せて資格取得などを積極的に行って、専門的な技術を向上させていく。</p>
総括	<p>【取組状況】</p> <p>グリーンアドバイザー、公園管理運営士、遊具安全点検、パークゴルフ指導員、刈払い機取扱者、甲種防火管理者、火葬技術管理士等の講習会を受講し、職員の資格取得、更新に努めた。</p> <p>そのほか、仙台市や関係団体等が主催する研修を受講し、職員の能力向上、事務処理のスキルアップに努めた。</p> <p>【計画期間の成果】</p> <p>公園等の維持管理に必要な刈払い機、チェーンソーなどの講習や、施設運営に欠かせないグリーンアドバイザーやパークゴルフ指導員等の資格取得等に積極的に取り組むとともに、仙台市等の関連団体が主催する研修に参加し、職員の能力の向上に取り組んだ。</p> <p>本協会の独自性、専門性である、自然環境、都市公園に関連した分野での管理、運営、企画の能力を更に高めるため、継続的、計画的な人材育成が不可欠である。</p>

③コスト縮減の徹底

目標	<p>経費の見直しや業務のプロセスなど、あらゆる場面においてコスト縮減に取り組み、職員に浸透するような検討を行いながら、業務の効率化につなげていく。</p>
総括	<p>【取組状況】</p> <p>葛岡斎場及び青葉の森緑地管理センターでは、光熱費節減のため、施設内の照明をLEDに更新した。七北田公園では公園灯がすべてLED照明灯に変更となった。</p> <p>葛岡斎場の火葬炉設備について、指定管理期間（令和4～8年度）に実施する修繕計画「葛岡斎場火葬炉設備修繕計画表」を更新し、施設の状態に即した、より適切な管理を実施した。</p>

各施設において、電気、ガス、水道などの使用量縮減に取り組むとともに、スケールメリットの活用や調達業者選定の工夫などにより、コスト削減を徹底した。

【計画期間の成果】

大規模施設である仙台スタジアムや葛岡斎場では、指定管理者の自主事業として事務室等の室内照明の LED 化を計画・実施し、光熱水費の削減を図っている。また、葛岡斎場では JV である太陽築炉工業㈱と火葬炉設備修繕計画を作成し、焼炉セラミックの張替え等を計画的に進め、コスト削減を図った。

各施設において光熱水費はもとより、事務用品も含めた在庫管理に心がけるとともに、イベント等の事務の効率化を図り経費削減に努めた。